

二〇一九年度 江戸川看護専門学校 入学試験問題

国語 (第一回試験)

注意

1. 指示があるまで開かないこと。
2. 試験時間は五十分とする。
3. 受験番号、氏名を解答用紙に正確に記入すること。
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. その他の注意事項は、試験官の指示に従うこと。

一

次の①～⑩の各文中の傍線部のカタカナを漢字にせよ。

- ① 有名な先生にシジ^レしている。
- ② 大勢の前でバトウ^レされる。
- ③ 彼は美術品にゾウケイ^レが深い。
- ④ 難問解釈のタンシヨ^レをつかんだ。
- ⑤ 二人の意見がビミヨウ^レに食い違う。
- ⑥ 状況をハアク^レする。
- ⑦ 細胞をバイヨウ^レする。
- ⑧ 世の中のフウチヨウ^レに流される。
- ⑨ キンチヨウ^レをほぐして試験に挑む。
- ⑩ 筋肉がシカン^レする。

二

次の①～⑤の言葉の意味を選択肢から選び、記号で答えよ。

- ① イデオロギー
- ② ジェンダー
- ③ クリエイティブ
- ④ コミュニティ
- ⑤ グローバル

- ア 世界的規模
- イ 創造的
- ウ 思想
- エ 革新
- オ 地域社会
- カ 社会的性差

三

次の（ ）の中に適当な漢字を入れて四字熟語を完成させよ。

- ① 温（ ）知（ ）の精神で歴史を学ぶ。
- ② 起（ ）（ ）結にこだわって文章を書く。
- ③ 世界には二律背（ ）することがあふれている。
- ④ 言語（ ）（ ）な振る舞いを許さない。
- ⑤ （ ）（ ）応変に取りはからう。

四

次の語句の意味として最も適切なものをそれぞれの選択肢から選び、記号で答えよ。

① 鼓舞

- ア うれしくて舞い上がること
- イ 大きさを言うこと
- ウ 人を励ますこと
- エ 演奏に合わせて舞うこと

② 嗚咽

- ア すすり泣くこと
- イ 気分が悪くなってもどすこと
- ウ 声が出ないこと
- エ 激しく怒ること

③ 鷹揚

- ア だらだらと怠けている様子
- イ のんびりとくつろいでいる様子
- ウ こっそりと何かを隠している様子
- エ ゆったりと威厳のある様子

④ コロンブスの卵

- ア 何事も強引に行えば周りが納得するということ
- イ 何事も最初に行うのは難しいということ
- ウ 着想の斬新さが成功につながるということ
- エ 思いもよらないことからアイデアが生まれること

⑤ ごぼう抜き

- ア 優れたものを次々と見つけ出すこと
- イ 楽々と物事をこなすこと
- ウ 農作業を示す隠語
- エ 多くの中から一つずつ引き抜くこと

五

次の文章を読んで後の問一～問六の設問に答えよ。
記号・句読点も一字として数えるものとする。

人生のことなど少しもわからない。ただ一つだけ確かだと思って、それだけ言おうと思って書いてきたのは、美しく死ぬとかいうのはやめた方がよい、ということだ。

ALS（筋萎縮性側索硬化症）という病がある。全身の筋肉が次第に動かなくなっていく。解明は進みつつあるが、まだなおる病気ではない。全国に五千人ほどいるとされる。進行していくと自分で呼吸をするのが難しくなるのだが、人工呼吸器を付ければ息ができて生きていける。しかし半数以上の人がそれを付けずに亡くなると言われる。

厳しい病気だからという医療側のためらいもあり、多くの人は自分の病気のことをよく知らされず孤立してしまう。それをなんとかしようとする患者や関係者のつながりを作ること呼びかけ、日本ALS協会という組織が発足するのに力のあった人で、一九九四年に五三歳で亡くなった川口武久という人がいた。（中略）

川口はこの病気の人としては進行がゆっくりで、発病してから呼吸器をつけず二十一年、家族と別れ病院で暮らして、そして最後は急性呼吸不全で亡くなった。四冊の著書がある。

彼は入院した病院を「ホスピス」と考え、「人工的な延命」を拒否し、「自然な死」を望むと言った。そして実際最後まで呼吸器をつけなかったのだから、その意志を貫いて亡くなったとも言える。それから約十年がたち、こういう死に方は望ましいこととして広くこの社会で語られている。またどういう死に方であれ、本人が決めたことであるから、それは受け

入れるべきだということになっている。

ただ、彼の書いたものを読んでいくとまったく単純ではない。まず彼は医療を受け、食べるにしても普通の方法では食べられなかった。それは人工的な延命ではないのかと自問し、たしかに自分は人工的な手段を使って暮らしていると認め、そしてそうして生きることを肯定している。また身体がまったく動かなくなっても、意志を伝えられる限り、いや伝えられなくなっても、生き続けたいともはっきり記している。そうして①自分の言うことが矛盾していることにも気がついている。また、著書四冊のうちの一冊は小説のかたちをとっているのだが、その中の主人公は、呼吸困難で意識を失った緊急事態への家族の対応として呼吸器を付け、そして意識を回復した後、自らがそれを肯定することになる。すこし何か違えば、彼はもつと生きたらうとどうしても思える。しかし当初の決定は A 覆されなかった。

一つに、呼吸困難やそれに伴う苦しさにつきまとわれ、そして疲れていった。そして様々なことが次第に自分の思い通りにならなくなっていく。むしろだから援助を人に頼む。しかし彼は病院を自らが死ぬまでの一時期の場所として選んだという思いもあり、生きるために必要なことをなんでも要求するのはためらわれた。結果的に遺書になった文章が残されているのだが、そこには呼吸器の装着を断わることを繰り返し返した後、「私の考えは間違っているかもしれない。……しかしこれ以上呼吸器を装着して、ご迷惑をかける訳にはいきません。」とある。彼は前向きな人で努力家であり、またそういう時代と社会に生きた。それは他の患者のための活動に向かわせたものでもある。しかし自分のことになると、人に「迷惑」をかけまいとし、自らの否定に向かってしまった。

それでも彼は ② 自分のためらいを文字に残したからそれを私たちは知ることができる。しかしそうでなければ、せいぜいすつきりした B 潔い「③決定」と、その決定通りに事態が運び終わったことだけが残される。それで周囲はそれでよしとする。 ④ そんなことがおびただしく私たちのまわりに起こっている。

迷惑をかけないことは立派なことではあるだろう。だがこの教えは ⑤ 反対の事態を必然的に招く。それを他の人に要求するなら、周囲に負担をかけるようなことをお前はするなということになる。その分周囲は、他者に配慮するはずだったのに、負担を逃れられ楽になってしまう。自らの価値だったはずのものを自らが裏切ってしまう。

犠牲という行ないにも同じことが言える。誰かのために犠牲になることは立派なことだ。だが、その人の犠牲になることを教えるのは、その人の存在を否定することになり、その価値自体を裏切る。そして犠牲になることを教える側はそのまま居残るのだから、ずいぶん都合のよいことだ。

I、⑥ 正しさ、美しさの語られ方には注意深くならざるをえない。実際に何が何より大切にされているのか。

とくに「尊厳な死」と呼ばれるものにおいて遣り取りされるのは明らかに不平等なものだ。尊厳を保つためにと言われ、ただ生きていようという言い方で説明されるその行いは、なにか精神的に高い営みのように思うかもしれないが、それは違う。

一つに耐えがたい苦痛が言われる。もちろん身体が痛いのは辛い。

II 苦痛は、医療者が下手でなければ、かなり軽減できるようになっている。すると、言葉の飾りをとって残るのは、身体的にあるいは知的に、自らが何かができなくなるから、できる度合いが減るから、生きる

のをやめさせよう、あるいは自らやめようという、それだけだ。

できるとは、生きていく上で役に立つことができることだ。つまり⑦
できることは生きていくための道具だ。できることが少なくなつたから
生きることを否定するというのは、存在の道具によって存在が規定され
否定されているということだ。これは逆立ちしたおかしなことである。
ところがそんなことが、その人の周りの人たちによって仕立てられ現実
のものにされているし、またその人自らの決定としてもなされてしまう
のである。

一つには、実際に支えがないために生き難いから生きられない、ある
いは生きないことにするということである。一つに、生存のために役に
立つもの、つまり手段を自力で生み出せないとき、生み出せない自分が
生きる価値を否定する。この二つとも、存在のための道具によって、存
在が支配されている。

世界にどうしてもその道具が足りないのなら、そのために生きていけ
なくても仕方がないかもしれない。しかし私たちの世界はそんな世界で
はない。少子化・高齢化で人が足りなくなるといってお話があるが、よく
考えれば、そう深刻になる必要がないことははっきりしている。一人ひ
とりの存在を認め、そのための道具を各人について用意する。そのため
に世界にあるものをうまく分ける。このような順序で考えればよい。

尊厳の問題とはまず単純にそんな問題ではないか。そしてできること
であるにもかかわらず、それがなされることが、尊厳が冒されてい
るといふ事態の核にあると思う。

Ⅲ、私たちが新型肺炎で騒いでいる間に、世界中で一日に約
八〇〇〇人の人がエイズで亡くなっている。とくに南部アフリカに多い。

それは不可避の悲劇ではない。安く供給しようと思えば供給できる薬
を使えば死なずにすむのに、供給されないから亡くなっている。それが
悲劇なのだ。

それに比べればこの国で生じていることはもう少し見えにくいかもしれ
ない。つまり本人の選択として、すこし屈折した形で現れる。ただ、
交通事故よりはるかに多い数の自死の背景には、失業や倒産、仕事絡み
の疲労がある。あえて言えば、そんな背景しかないのに、そうなってし
まっている。実際に人が生きていくことのできる物も、何もかもこの社
会に既にある。その意味で、どこにも危機がなく悲惨があるはずがない
にもかかわらず、こうなってしまっていることが悲惨なのだ。

どんな生き方がよいか知らない。ただの生がたんに肯定されればよい。
それを消費させようとしたくないことだ。そのために、当たり前のことと
して確認していくこと、本来は可能なことを可能だと言うことができる。
そして、その方に現実をもっていくことも、本来は可能なものだから、で
きる。
(立岩真也『希望について』による)

問一 文中の二重傍線部A～Fの漢字の読みを平仮名で答えよ。

問二 文中の I ～ III に入れるのに最も適当な語をそれぞれあとの選択肢から選び、記号で答えよ。

ア ところで イ だから ウ さらに エ 例えば
オ しかし

問三 傍線部①「自分の言うことが矛盾している」とあるが、どのような点が矛盾しているというのか。「拒否」と「肯定」という言葉を必ず用いて説明せよ。

問四 傍線部②「自分のためらい」について。

i 「自分のためらい」とはどのようなことに対する「ためらい」か。解答欄の「～こと。」という形に合うように、文中から二十字で抜き出して答えよ。

ii 「ためらい」を感じたのはなぜか。その理由を二つ答えよ。

問五 傍線部③「決定」とはどのようなことか。文中の語句を用いて三十文字以内で説明せよ。

問六 傍線部④「そんなこと」とはどのようなことか。「～だけが伝わり、～が伝わらないこと。」という形で説明せよ。

問七 傍線部⑤「反対の事態」とあるが、それはどのようなことか。解答欄の「～こと。」という形に合うように、文中から二十四字で抜き出して答えよ。

問八 傍線部⑥「正しさ、美しさの語られ方には注意深くならざるをえない。実際に何が何より大切にされているのか」とはどういうことか。最も適当なものをあとの選択肢から一つ選び、記号で答えよ。

ア 他人に迷惑にならないようにしたり、他人のために自分を犠牲にしたりすることで人としての存在価値が上がるため、注意深く行動する必要があるということ。

イ その人の存在価値よりも、他人に迷惑をかけないようにすることや自分を犠牲にする行為の方が精神的に高い営みであるということや広く伝えていかなければならないということ。

ウ 他人に迷惑をかけないことや犠牲になることに対する価値観が、その人の存在価値よりも大切にされることがないように注意しなければならぬということ。

エ 人の存在価値は自己犠牲が前提にあって成り立つものであるから、病気になるっても人を頼りにしないことが大切であるということ。

問九 傍線部⑦「できること」とあるが、この文章の中でこれとほぼ同じ意味で使われている語句を文中から五字で抜き出して答えよ。

